

神美民話

【三開山落城秘話 その2 金かんざしをさした龍】

三開山城は「羽柴秀吉」の但馬攻略によって焼き討ちにあい、城中の将士、女房子供たちも皆、逃げ場もなく、山麓周辺で殺されたという悲惨な話が語り伝えられています。

三開山に南面した麓にある、香住の里西の谷という谷間に、山上から逃げ惑いながら落ちてきた、城主の奥方や侍の女房達はこの谷で捕えられたり、殺されたりして、皆非業の最期を遂げたということです。

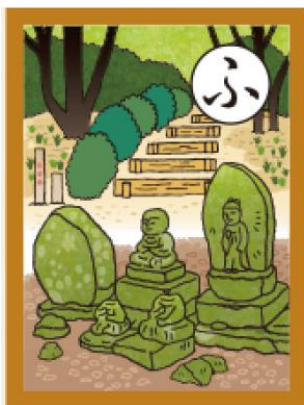
その後、この谷の麓にある小さな溜池に、嵐の夜など、谷水が流れこんで、池が氾濫すると、溜池の中から黄金のかんざしを頭に戴いた龍が姿を現わし、池の中を泳ぎ回ったとい

います。これはこの池の付近で殺された奥方の怨念が浮かばれず、嵐の夜、姿を現わして怨みを訴えるのだと、それがためその谷水を飲料洗濯等に使用している里の婦人たちは、よく婦人病に悩まされるのだと伝えられていました。

それで里人の有志達で、池の上方百メートル程の平地に、観音堂を建立し、村内安全、怨霊退散の祈念をしましたので、金かんざしの龍の姿も現れなくなり、病気に苦しむ婦人もなくなりました。今でも毎年七月十七日、観世音菩薩の命日には、子供たちが参道を清掃し、晩には観音講中の婦人や、こころざしある人達がお詣りして回向する習慣は続いて行われています。

田中信夫記「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より

クイズ【2】のヒント



観音堂 (香住)



現在の香住観音堂は民話の中の場所から違う位置(香住神社の麓)に移設されています。